

北海道立北方四島交流センター運営懇談会議事概要

- 1 開催日時 平成29年7月24日（月）13:30～14:45
- 2 開催場所 北海道庁 本庁舎 2階 総務部会議室
- 3 出席者
- | | | |
|-------|--------------------------|---------|
| 学識経験者 | 札幌大学地域共創学群教授 | 大矢 温 |
| | 北海道公立大学法人札幌医科大学理事 | 近江秀彦 |
| | 独立行政法人北方領土問題対策協会専務理事 | 久津摩敏生 |
| | 公益社団法人北方領土復帰期成同盟副会長 | 田尻忠三 |
| | 公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟参事 | 上田康幸 |
| 指定管理者 | 北海道立北方四島交流センター管理主査 | 中澤愛樹 |
| | 北海道総務部北方領土対策本部北方領土対策課 課長 | 東田俊和 |
| | | 主幹 三宅 亮 |
| | | 主査 伊藤公一 |
| | | 主事 和田大樹 |

4 議事概要

(1) 開 会

(2) あいさつ 北方領土対策課長 東田俊和

(3) 議 事

ア 施設概要説明（二ホロ映像視聴）

イ 管理運営状況（平成26～28年度）説明

ウ 今後の管理運営に関する懇談

学識経験者からの主な発言

[入館者数の目標に関して]

・入館者数が目標値に5千人程度足りないが、職員が努力して一気に解決するような策は難しいのではないかと。動画での情報発信で考えると、二ホロの紹介や日本とロシアとの文化交流といったものがあるが、日本に来たロシア人がこんな点に驚いたなどといった動画は人気。今後、動画での情報発信を行うとともに、入館者数をページビューに置き換えるなどといった検討も必要なのでは。

・大臣などが来根し、根室で要望会などを行った場合、それだけで100人や200人は入館者が増える。入館者数を増やす努力も必要だが、一般来館者数が実際に増えているのか減っているのかといったデータ分析も必要なのでは。

[入館者数の増加に向けて]

①自主企画事業

・修学旅行生の二ホロ利用促進を図るのもいいのでは。また、展示会については、千島連盟の北方四島の昔と今を比較した写真など、他の団体等が所有している写真やパネルも活用したらいいのでは。

・ロシア語講座について、ロシア語を学んでいる根室の高校生を対象に、夏休み中など集中講座のようなものを行うと、参加しやすいのではないかと。他にも文化祭などでロシア料理を

提供するに当たって、まず二ホロのロシア料理講座で勉強するなど、若い人たちを呼び集める工夫をされたいかがか。若い人たちは、これから長いつきあいができる可能性がある。

②二ホロサポーター

・二ホロサポーターについて、28年度の登録者は59名となっているが、登録者数をもう少し増やした方がいいのでは。資料にあるサポーター通信は、啓発媒体としてとても読みやすいことから、もっと活用した方がいいのでは。

③来根者やイベント参加者の取り込み

・観光については、様々なテーマ、可能性があるのでは。

・例えば、沖縄のヒメユリの塔の語り部などには、多くの修学旅行生が訪れる。そういった所のノウハウなども研究する価値があるのでは。行っている内容は、同じようなことだと思うが、限られた職員が知恵を絞っても限界がある。

・指定管理者は根室市なので、市のイベントから人を誘導できる流れが作れば、根室に来た人をどう取り込むかの工夫が必要。

・地域の中心として活用してもらいたいものでは。最近は道の駅を地域の流通の中心とするような様々な計画もある。二ホロの近辺でバーベキュー大会でも何でも開催して人を集め、二ホロに取り込むといった人の流れを作っては。

④類似施設との連携

・納沙布岬の北方館との連携についても検討したらいいのでは。

⑤特色

・二ホロに来たら、国内では他に見ることができないものがあるといいのだが。

[啓発事業に関して]

・領土問題の啓発活動は非常に重要。元島民の方々が減少している状況において、きちんと継承していかなければならない。二ホロには、その役割を強く求められており、しっかりと取り組んでいただきたい。

(4) 閉 会

5 その他

- ・懇談会は、公開で行った。
- ・懇談会の内容は、この議事概要をもって記録とし、議事録は作成しない。